

令和5年度
一般入学試験

国語

広島県立三次看護専門学校
第二看護学科

受験番号() 氏名()

答案作成上の注意

- 1 受験番号, 氏名は, 解答用紙の所定の欄に必ず記入すること。
- 2 解答は解答用紙の所定の場所に記入すること。
- 3 配布した問題用紙, 解答用紙は持ち出してはならない。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

人は自分の能力や技能等を低く見せる場合がある。すなわち自己卑下であり、自己高揚とは逆の自己呈示の過程である。これはどのような動機によって行われるのだろうか。

自己卑下をする理由として、それを利用して、自分に得な状況を作り出すことをはつきり意図する場合がある。たとえば、能力がないように見せかけて町内会の面倒な役職をノガれるとか、弱々しいふりをして誰かにかばってもらうような例である。

しかし、そうしたいかにもダサ^bんな場合でなくても、日本人は欧米人に比べて自己卑下的な表現をす^cるとか謙遜するとかいうことは、ジュウライ^dからシテキ^dされてきたことである。

入学試験に合格した、不合格だった、またテニスの試合に勝った、負けたなど、人はさまざまな成功、失敗の経験を^eする。そうしたときに、どうしてそうなったのか、原因を^e考えることが多いだろう。社会心理学ではこれを帰因と呼ぶ。ワイナー^{*}は、さまざまな帰因を、能力、努力、課題の難しさ、運の四つに分類することを^eテイショウ^eした。たとえば、試験に合格したのは自分に能力があったためとか、運がよかったため、テニスに負けたのは相手が強かった（つまり課題が難しかった）ため、とか、練習不足だった（すなわち努力不足だった）などというわけである。帰因が内的か外的か、また、安定（一定している）か不安定かによって、表4-3のように二つの次元に分類することができる。

欧米で行われた研究では、成功したときには自分に力があつたためとするという結果が見られた。たとえば自分の能力が高いから試験に合格した、と考える。ところが、同様の実験を日本で行うと、結果が異なっていた。日本人はむしろ失敗したときに内的な要因、とくに努力不足のせいにしやすいのである。たとえば、試験に失敗したのは勉強不足だ、テニスで負けたのは練習が足りなかったからだ、と考える傾向があるということになる。多くの研究が行われたが、この傾向は一貫してみられている。つまり欧米人に比べて日本人は自己卑下的だということになる。

これには日本人のような^fトウヨウ文化と欧米文化とでは、自己に対する見方の違いがあるという事情が関係していると推測されている。すなわち日本人は相互協動的な自己観を持ち、他の人々と相互に協調・イゾン^gすることが重要であると考えている。一方、欧米人は、相互独立的な自己観を持ち、自分の内面に誇るべき部分を見いだそうとしている。こうした自己観の相違が、成功、失敗の帰因にも影響する^hというのである。

A、こうした自己卑下的な自己呈示はなぜ行われるのだろうか。そもそも本心で「自分は努力不足だ」「力がない」と

表4-3 成功、失敗の帰因の分類

安定性	制御の位置	
	内	外
安定	能力	課題の難易
不安定	努力	運

(Weiner, et al., 1972)

思っているのだろうか。それともそれは単なる見せかけで、本心では「自分はがんばっている」「力がある」と思っているのだろうか。

このことを確認するために行われた実験がある。その際、実験の参加者が自分の成功や失敗の帰因を実験者の前で表明するのではなく、実験者に分からないように匿名で表明する場合にどうなるか、ということ調べた。匿名であれば見せかけを作る必要がないから、本音が出る。もし、自己卑下が見せかけで行われているなら、匿名状況ではその傾向は消えてしまうだろう。しかし、多くの研究では、匿名状況でもやはり自己卑下的な方向で自己呈示が行われていた。

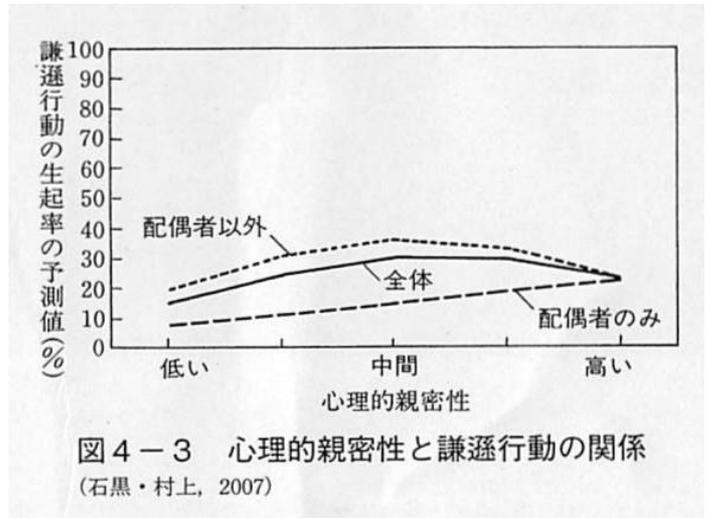
少なくとも、帰因という文脈に限っては、日本人の自己卑下的な呈示のしかたは、見せかけだけではないといえる。ただ、そうすると、わざわざ自分の劣った点を口にして、それを自ら確認することになるのだから、自尊心を傷つけることにもなりかねない。自分はだめな人間だと感じて、気持ちが落ち込んでしまうということにはならないのだろうか、という疑問が生ずる。しかしながら、自己卑下的な自己呈示にはプラス面もある。というのは、欠点を自覚すれば、それを克服するように積極的に生かしていくこともできる。自分の長所だけを意識していたのでは、自らを高めることができない。むしろ、「失敗したのは努力が足りなかったから」と考えることによって今後の改善に努めるといって、向上心に結びつく部分もあると考えられている。

そうはいつでも日本人の自己卑下がすべて本音とはいえない。対人関係を配慮して、見せかけだけの謙遜をする面もある。誰に対して話すかによって自己卑下の度合いが異なるという事実からも、自己卑下に本心でない部分があることはヨウイに推測できる。その点をショウウサイに検討した調査を紹介しよう。

⑤この調査は二〇〇二年に青森県弘前市で行われた。右のような帰因に限らず、自己卑下全般を念頭に置いたものであり、成人（二十〜七十五歳）を対象にして五七一名から回答を得ている。自己卑下をしやすいかどうかは、「その人には自分のしたことについて控え目に話す」という項目に対する回答によって判断された。「はい」と答えた人は全体では二七・四%だが、話す相手による差もかなり見られる。知人や近所の人に対しては比率が高く、配偶者、同僚・仕事関係、親友は比率が低い。

ここまでは普通に予想できるかもしれないが、面白いのは、相手との親密さや地位関係が、さらにいろいろと影響を及ぼす点である。親密さについていえば、図示すれば次ページの図4-3のようである。配偶者を別にすると X1 に対する自己卑下の比率が最も高くなっている。これは X2 に対しては Y ことを反映していると考えられる。

B、話し手が自分自身に配慮しながら自己呈示する場合に相ムジュンする二つの側面がある。プラス面を示すこともマイナス面を示すことも、自分にとってはそのなりに意味を持つし、また、それなりに危険性も孕んでいるということである。自分を他者に示すことで、自分自身をどう評価するか、すなわち自己評価の確認ができる。その意味では、自分が他者に対して高く示せれば、自己評価を高める手段になり得る。しかし、自分を高く示すことは、



間接的には相手や他者を低く評価する、ということにつながる。そして相手からは、「尊大だ」「生意気だ」というような反発を受けることにもなる。

その意味では、むしろ自分を実際よりは低く示すほうが無難である。相手からは、「偉ぶらない」「謙虚だ」とプラスの評価が得られるかもしれない。しかも、それは相手を間接的に高めることにつながる場合もある。ただし、もし、自分が低く示したことを相手が真に受けてしまったら、自分の自己評価は結果的に低められてしまうことにもなる。こちらにもマイナス面がある。

(岡本真一郎『言語の社会心理学』による。出題の都合上、一部改変した。)

注 ワイナー……アメリカの社会心理学者。

問一 傍線部 a ~ j のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 傍線部 ① 「人はさまざまな成功、失敗の経験をする」について、欧米人と日本人はそれらをどのように捉えがちであると説明されているか。欧米人と日本人を比較しながら答えなさい。

問三 傍線部 ② 「帰因が内的か外的か」における「内的」と「外的」の意味について、表4-3の用語を用いて違いが分かるように説明しなさい。

問四 空欄 A に当てはまる語を、次の①~⑤の中から選び、番号で答えなさい。

- ① そして
- ② あるいは
- ③ それでは
- ④ つまり
- ⑤ やはり

問五 傍線部③「自己卑下的な自己呈示はなぜ行われるのだろうか」という問いについて、本文では複数の可能性が検討、検証されている。このうち「自己向上」という点について言及された箇所を探し、その概要を六十五字程度でまとめなさい(句読点は1字と数えること)。なお、解答は「自己卑下的な自己呈示をすることによって」という書き出しにスムーズにつながるように作成すること。

問六 傍線部④「本音」の対義語である漢字二字の語を答えなさい。

問七 傍線部⑤「この調査」に不十分な点があるとするれば、より良いものにするにはどのような改良が考えられるか。傍線部⑤の直後に記されている調査の概要をよく読み、提案として考えられる改善案を三点挙げなさい。なお、解答は箇条書きで記すこと。

問八 傍線部⑥「配偶者」の意味を答えなさい。

問九 原文では、空欄 X 1 と X 2 には同じ意味の文言が書かれている。X 1 と X 2 に全く同じ文言が入ると仮定して、もっともふさわしい表現を答えなさい。

問十 空欄 Y に入るべき文言を答えなさい。

問十一 空欄 B に当てはまる語を、次の①～⑤の中から選び、番号で答えなさい。

- ① そのうえ ② だが ③ ところで ④ 要するに ⑤ なぜなら

問十二 本文冒頭の二重傍線部「人は自分の能力や技能等を低く見せる場合がある。すなわち自己卑下であり、自己高揚とは逆の自己呈示の過程である。これはどのような動機によって行われるのだろうか。」は文章構成の観点から見ると、本文全体の中でどのような役割を担っているか。本文全体の主題を明らかにした上で答えなさい。

問十三 あなたが看護の現場に出た際、同僚の医師、看護師、あなたが看護を担当する患者などに対する自己卑下的な自己呈示はどの程度必要と考えるか。

本文全体の内容をふまえ、あなた自身の経験や知識に基づいた具体例を示しながら二百字程度で述べなさい。